

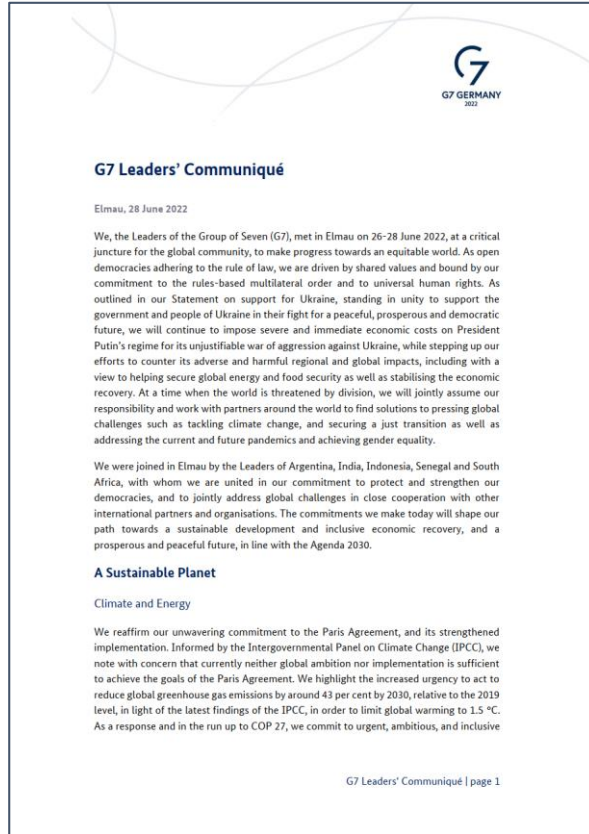
# 2022年G7の結果

～環境関連～

サステナビリティ統合センター  
リサーチマネージャー

小野田 真二

# G7エルマウ首脳声明 (G7 Leaders' Communiqué)



- 気候と外交に加え、民主主義の強調
- 環境の位置づけは？
- SDGsの視点ではすべてが重要！

## ● 首脳声明の構成：全28ページ

前文

持続可能な地球

- 気候・エネルギー (5ページ)
- **環境 (1ページ強)**

経済的安定及び変革

- 世界経済と金融
- 貿易・サプライチェーン
- 雇用及び公正な移行

健康な生活

- パンデミックに対する予防、備え及び対応
- グローバルヘルス・アーキテクチャー (国際保健の枠組み)

より良い未来への投資

- 持続可能なインフラ
- 持続可能な開発

外交及び安全保障政策

共により強く

- ジェンダー平等
- 過激主義、偽情報、外国の干渉及び腐敗
- デジタル化

結論

# 首脳声明における環境パートの概要

## ●自然・生物多様性

- 国内及び世界で、2030年までに少なくとも陸地と海洋の30%の保全・保護にコミット
- **2022年の生物多様性条約（CBD）COP15に変革的な世界の生物多様性枠組みを採択**し、実施する緊急性を強調
- **CBD COP16までに**、改定され強化された**生物多様性国家戦略及び行動計画**を条約事務局に提出
- 自然を活用した解決策（NbS）\*1の主流化・強化・拡大、ワンヘルス・アプローチ\*2の推進

\*1 自然が有する機能を持続可能に利用し、多様な社会的課題の解決につなげるためのアプローチ

\*2 人の健康が、食物・動物・環境の健康、及び生態系への影響とのバランスと密接に関係するとの理解に基づく、健康への統合的・体系的アプローチ

## ●海洋と資源効率・循環経済

- 世界の海洋の保護・保全・回復、持続可能で公平な利用の推進
  - ・ 国連海洋法条約の下で法的拘束力を有する文書を2022年に成立
  - ・ 「**G7オーシャンディール**」を承認し、環境大臣に対し、本年末までに進捗報告を要請
- 「**資源効率性及び循環経済に関するベルリン・ロードマップ**」を承認

## ●農業部門

- **2030年までに土地劣化と森林消失を阻止・反転**させることを強く決意
- **持続可能なサプライチェーン**を促進するため、ベスト・プラクティスを共有。また、G7の政策措置の質と一貫性の向上にコミット
- 食料安全保障と気候変動・生物多様性の損失との闘いに対する**農業部門の貢献**を強化
  - ・ 土壌の炭素隔離の活動強化（気候の管理と生物多様性保全を改善、農業生産性を向上、特に小規模農業従事者の収入源を創出）

# それ以外の個所での環境への言及

- 貿易の流れは、グリーンで公正な移行、環境物品、サービス、技術及びイノベーションの普及に重要な役割
- グローバル・サプライチェーンにおける人権、環境及び労働に関する国際的基準の一貫した実施及び遵守を最大化するため協調
- 2025年までに、我々は、パートナーである新興国及び開発途上国の戦略と統合的な形で、また、我々の予算プロセスに従い、グリーン・セクター及び伝統的セクターのグリーン化に特化した、雇用及び技能促進プログラムに対する我々のODAの割合を増加
- 気候変動への適応における保健部門の重要な役割を認識し、我々の保健システムを、遅くとも2050年までに、環境的に持続可能かつ気候中立なものにするるとともに、より強じんなものにすることにコミット
- G20の枠組みにおけるものを含む経済大国との我々の協力の文脈で、共通の地球規模の課題、特に気候変動及び生物多様性の損失、その他の関連する多国間の課題への対処に関して、中国と協力することが必要
- ネット・ゼロ、ネイチャー・ポジティブ、かつ資源効率の良い経済とデジタル・エコシステムのために、デジタル技術をより良く活用
- デジタルトランスフォーメーション及びグリーントランスフォーメーションに向けた（デジタル技術の）標準化の支援に関する議論を進めるために、G7内及び志を同じくするパートナーとの国際協力に対する我々の支持を再確認

# ベルリン・ロードマップについて

- G7気候・エネルギー・環境大臣会合（2022年5月26-27日）のコミュニケ附属書として採択。
- 富山物質循環フレームワーク（2016年）を受け、資源効率性・循環経済に関するG7の最初の作業計画（ボローニャ・ロードマップ）に続く3か年計画（2022年～2025年）。
- NDC・生物多様性目標の達成のために循環経済への移行が不可欠との共通理解のもと、G7及びその他のステークホルダーと共同して資源効率性・循環経済を推進。
- 資源効率性と循環経済は、特に重要鉱物に関するサプライチェーンの強靱性・持続可能性を高める上で重要な役割を果たすこと等を強調。

## 新規の主な活動

- 「循環経済及び資源効率性の原則 ※1」の策定 ※2
- 脱炭素やITに不可欠な重要鉱物の資源循環 ※2
- NDC達成等に資する資源効率性・循環経済の活用
- 廃棄物分野の脱炭素化 ※2
- 製品の機能見直しを含めた軽量化
- 資源循環における効果的な化学物質管理

※1 グローバルな企業や投資家に対して、マテリアリティに応じて経営戦略やビジョンに、循環経済への移行や資源効率性の向上を位置付けていくことを求めることで、企業・金融界の自主的な取組を推進するもの。

※2 日本がリード国又は共同リード国となっている活動

## 影響が大きい部門

- 建設と建築
- 食品ロス・廃棄物
- 情報通信技術と電子機器
- 運輸
- プラスチック
- 繊維とファッション
- 廃棄物管理、リサイクル技術、  
廃棄物の越境移動

# 気候・エネルギー・環境大臣会合コミュニケ

## ● 大臣コミュニケの構成：全39ページ

I. **共同行動**：気候変動、エネルギー及び環境の課題をともに解決へ

- **3つの地球規模の危機**へ取り組む
- **資金の流れ**を動員し、整合させる
- **気候変動と生物多様性**を関連付ける
- **土地利用、土地利用変化及び林業**
- 持続可能で気候変動に強靱性のある**水管理**
- **海洋**
- **循環経済と資源効率性**
- **クリーンエネルギー技術及び投資**
- **サプライチェーン**
- **鉱物**
- 持続可能な**農業と食料システム**
- **包摂的で公正な移行**

## II. 環境

- **生物多様性**の保護、保全、回復、及び持続可能な利用
- **海洋**の保護、保全、回復、持続可能な利用
- **資源効率性**の向上、経済の循環型への転換
- SDG 目標 12.4 に関する**化学物質と廃棄物**の持続可能な管理
- **サプライチェーン**を通じた環境的な持続可能性の実施

## III. 気候変動及びエネルギー移行



# 気候・エネルギー・環境大臣会合の成果のポイント（共同行動）

- 気候変動、生物多様性の損失、汚染という3つの世界的危機が表裏一体で相互に強化されている。これらの課題は主に人間活動と持続不可能な消費・生産パターンに起因していることを認識
- IPBES \*3、IPCC\*4、その他の関連する国際科学・政策パネルに対し、協力の強化を要請
- 気候変動と生物多様性の損失に統合的に対処し、双方に利益のあるアプローチを促進する野心的な国家政策、戦略及びプログラムを開発し、実施することにコミット
- 経済のレジリエンスにとって、十分に機能する持続可能な世界のサプライチェーンと多様化の重要性を強調
- OECD 多国籍企業行動指針や国連ビジネスと人権に関する指導原則（UNGP）に沿った環境・人権デュー・ディリジェンス\*5などを通じて、サプライチェーンの持続可能性とレジリエンスの促進における民間セクターの重要な役割を明確に示し、こうした措置の有効な実施を促進
- 人権の尊重を強化し、誰一人取り残さないことの重要性を強調
  - 社会的保護制度を強化し、雇用可能性と継続的な教育、スキルアップ及び訓練を促進
  - ジェンダー平等、ジェンダーエンパワーメント、社会的包摂を推進する気候・エネルギー・自然政策、計画、資金及び行動を実現
  - 地域の市民社会組織や先住民族が直面する気候・エネルギー・自然金融へのアクセスの障壁に対処

\*3 IPBES：生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学・政策プラットフォーム、\*4 IPCC：気候変動に関する政府間パネル

\*5 企業が人間や環境への悪影響をどう特定、予防、緩和しているか、また、企業がこれにどう取り組んでいるのかを報告することに焦点を置いたプロセス

# 気候・エネルギー・環境大臣会合の成果のポイント（環境）

## ●生物多様性

- 生物多様性に有害な補助金を含むインセンティブを特定
- CBD 締約国による進捗状況を追跡するための強固な**主要指標**、さらに野心と実施状況の**グローバル・ストックテイク**、**野心と実施を時間の経過とともに高める段階的引き上げメカニズム**を支持
- 市場参加者に対し、TNFD\*<sup>6</sup> の枠組策定に関与することを強く要請
- **自然を活用した解決策（NbS）の主流化、ワンヘルスアプローチの実施を促進**

\*6 TNFD:自然資本及び生物多様性の観点からのリスクと事業機会を適切に評価し報告するためのフレームワークを構築する国際イニシアティブ

## ●海洋

- **SDG14 が SDGs の中で最も資金が不足している目標であることを認識し、沿岸・海洋の NbS を含む海洋ファイナンスの強化**にコミット
- UNEA5.2 決議「プラスチック汚染を終わらせる：法的拘束力のある国際文書に向けて」を賞賛し、2024 年末までの交渉完了を目指し、この決議の下で開始される交渉の迅速な進行にコミット

## ●サプライチェーン

- 人権、環境、気候の保護が表裏一体であることを認識
- 企業がサプライチェーンを通じて、環境、社会、経済の持続可能性に関する世界的目標の達成に貢献することを促進
  - **国内デュー・ディリジェンス規制、サプライチェーン全体の透明性及び報告の強化、持続可能かつグリーンな公共調達**の強化
  - 企業のあらゆる種類のサプライチェーンにおいて、**ベストプラクティスを共有し、解決策を特定するための国際的な情報交換の重要性を強調**



# まとめと展望

- ✓ 世界的な生物多様性の取り組み推進の重要な時期
  - COP15におけるポスト2020生物多様性枠組み合意
  - TNFDのプロセス
  - 気候変動の仕組みとの類似と協調
- ✓ 気候変動、生物多様性、環境汚染への統合的取り組みの強調
  - IPBES、IPCC、その他の関連する国際科学・政策パネルに対し、協力の強化
  - NbS、ワンヘルスアプローチなどの強調
- ✓ サプライチェーンを通じた人権、環境、気候の保護強化
  - 高まる企業への要請：国内デュー・ディリジェンス規制、サプライチェーン全体の透明性及び報告の強化
- ✓ 日本は来年のG7で何を打ち出せるか
  - 日本発の地域循環共生圏、脱炭素先行地域はどのように貢献できるか？
  - 企業のサプライチェーンのベストプラクティスの共有？
  - 統合的取り組みに関する科学的知見の強化は？
  - 日本が強調したいトピックは？
  - ステークホルダーの巻き込みは？

# 参考：第3回パリ協定とSDGsのシナジー強化に関する国際会議

## THE THIRD GLOBAL CONFERENCE

Strengthening Synergies  
Between the Paris Agreement  
on Climate Change and  
the 2030 Agenda for  
Sustainable Development

Building the evidence base for synergistic action  
in support of raising climate and SDGs ambition

### CO-CONVENED BY



### HOSTED BY



### IN PARTNERSHIP WITH



Registration and detailed programme will be announced soon and published  
on the conference website [www.un.org/en/climate-sdgs-conference-2022](http://www.un.org/en/climate-sdgs-conference-2022)

For more information, please contact UNDESA at [salame1@un.org](mailto:salame1@un.org)



本会合は、2つの不可分なグローバル・アジェンダへの取り組みを強化し、シナジーを形成することで、対策を一層加速させることを目的としています。

マルチステークホルダーが統合的視点と行動の裏付けとなる科学的知見に基づいたエビデンス、解決のための具体的な手段や経験に基づく知見を集約し、共有し、発信する場となることを目指します。

IGESウェブページはこちら：

<https://www.iges.or.jp/jp/events/20220720-21>

ご清聴ありがとうございました。

サステナビリティ統合センター/ リサーチマネージャー

小野田 真二

**IGES** Institute for Global Environmental Strategies  
公益財団法人 地球環境戦略研究機関